日刊 動労千葉
81.1.20
No. 636
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二ー八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

「本部」革マル派反動分子のひきまわしに批判が続出！

「臨時大会ひらけ」の声高まる

今、銚子支部では、動労「本部」革マル反動分子（三信ビル）による直接的な支部分裂工作・介入と彼らの眼にあまるセクト的反労働者的独断・ひきまわしに対し、組合員からの多くの批判があちこちで噴出しています。

その結果、いったんは「執行部一任」の署名をしたという人たちをも含めて多くの人たちの間から「これまで、銚子は一本にまとまって進もう、というので時間をかけて慎重にやってきた。だけどこの一ヶ月間位のうちに急にバタバタと強引に引っぱりまわすようなやり方はおかしい」「こんなやり方でつっ走ったら結局銚子は四分五裂バラバラになってしまう。今まで何のために努力してきたのかわからない」「動労千葉がいっているように、こんな重要な問題では支部の臨時大会を開いて討論して決めるべきだ。これまでもそうやってきていたではないか。それ以外に解決の道はない」等々といった声が大半の組合員の声・意見として出されてきていることは、すでに皆さん周知の事実です。これは全く当然すぎるほど当然の声であり、銚子組合員の総意を代表しています。

『何が何でも、銚子支部を分裂させよ』と、本音をあらわした「三信ビル」

銚子支部の混乱を狙い、分裂を必死に画策している者は一体誰か――。その張本人こそ「三信ビル」（動労「本部」革マル反動分子の千葉破壊のための出先機関）にほかなりません。〝組合の規約規則なんかどうでもいい。要するに執行部のきめたことに従ってもらう。いやなら脱退届をもってこい〟という事を公然といい放った、驚くべきファッショ的組合支配の本性をバクロした、あの（1/7付）「動労銚子支部の組合員に訴える」なる「掲示」を読んだ多くの組合員は口々に不信感と怒りを表明しています。あんなデタラメな居直りがまかり通るようならそもそも組合に規約や規則や支部大会での討論や決定など全く必要ない、という事ではありませんか。これこそ彼ら「本部」革マル反動分子の組合引きまわしの典型的姿にほかなりません。

「執行部一任」の署名をした人たちの中からさえも「あれはひどい。自分は、そんなつもりで署名したのではない」という声、そればかりか〝業務再開〟に手を上げた執行委員の半数近くまでもが現に「自分は一切知らされなかった」「ゆきすぎだ」「内容に責任もてない」「三つの疑問があるので聞いてみる」等々と言っているではありませんか。

銚子支部組合員の総意を代表する動労千葉の正しい路線と主張

あのデタラメ「掲示」が実は支部執行委員会の知らぬ所で、「三信ビル」（「本部」革マル反動分子）が書いて、執行委員会の名前を勝手に偽称して貼り出させたものであることが判明し、全員の怒りの前に、三日後自ら撤去せざるを得なかったのも当然のことです。つまり、12.23執行委「決定」は組合員の総意とは反するものであることを自ら認めたことを意味しているといえます。今こそ〈12.23「決定」無効→白紙撤回〉の確認の上に立ち〈臨時支部大会の開催〉をかちとっていきましょう。

「本部」派として運動する、とはどういう事か

1/2付「再建デマ情報」でいみじくも、本音を言っているように「昨年は、反ファシズム統一戦線の構築そして小谷教宣部長襲撃事件、千葉の地で四支部の〝再建〟運動」に終始したのが動労「本部」の運動の全てであったと言っています。全くその通り、この重要期に、「反合理化、運用合理化」も、「反戦」も、ましてや「三里塚・ジェット、地域住民共闘」など全く問題にすらせず、ひたすら当局・自共とベタッキ、革マルセクトのよう護運動と動労千葉破壊のみに組合員を引きまわすという、今日の「本部」の姿をよく示しています。

そして、千葉に対してそうであったように、彼らの引きまわしに従わない部分に、テロ・リンチを加えるという事を今日、全国でくり拡げているのです。「排除とテロ」の論理です。こんなものを銚子にもち込ませては、なりません。

●早急に臨時大会を開き、論議を尽せ！

●今こそ銚子は 動労千葉の正しい路線のもとに一本にまとまり、共に前進しよう！